

農村体験ツアー2016 報告書

2016. 10. 24

農村体験ツアー実行委員

■企画概要

日程：2016年10月15日～16日（土・日）

行先：京丹後市久美浜町・与謝野町

参加人数：総勢46名（他大学1名/院生3名/卒業生1名/生協職員3名/事務局2名/おれんじ14名）
（男性16名/女性30名）

目的：①普段の食と関わる体験を通じて、農家の方々の想いや苦勞を知る。

②ツアーをきっかけに京丹後について知り、地域について関心を持つきっかけとする。

③京丹後の歴史と文化を中心として魅力を知るきっかけとする。

④ツアーをきっかけに年齢、性別を超えて参加者同士の交流を深めてもらう。

⑤ツアーで学んだこと、感じたことを他の人に伝えていく。

■スケジュール

～1日目（10月15日）～

8：20 京都府立大学正門前集合

8：40 正門前からバス出発（途中京丹波SAで休憩）

11：40 エチエ農産着

16：15 エチエ農産発

16：30 小滝先生によるジオパーク研修@箱石浜

18：00 風蘭の館着（男性はそこから歩いてシーサイド西中へ）

19：00 風蘭の館にてバーベキュー開始

21：30 解散

～2日目（10月16日）～

7：30 風蘭の館集合→ツリーハウス散策

8：30 宿で朝食

9：40 風蘭の館からバス出発

10：00 ミルク工房そら着

11：30 ミルク工房そら出発

12：00 久美浜町道の駅 SAN KAI KAN 到着（お土産、昼食バイキング）

13：15 道の駅発

14：10 与謝野町立古墳公園着

16：30 古墳公園発

16：40 道の駅シルクかやの里着（帰りに五条烏丸で降りる方は荷物をトランクから出す）

17：10 シルクかやの里出発→京都へ（途中南丹SAでお手洗い休憩）

19：00 烏丸五条着

19：20 京都府立大学着→解散

■写真で振り返る当日の様子

1日目 エチエ農産にて 丹後コシヒカリのおにぎり試食

塩おにぎり、菜っ葉が入ったおにぎり、なんでも自分で握ったおにぎりはおいしい！

付け合せで用意して頂いたお漬物もとっても美味しく、ご飯が進みました。



炊きたてのお米は熱い！水を付け忘れて手にお米がくっつく人も ((笑))



青空の下で友達と食べるおにぎりは最

越江雅夫さんのお話

エチエ農産の歴史、有機農業についてなど丁寧に説明して下さいました。大型機械を使った田植えの動画には感嘆の声が上がりました。



越江さんが有機農業を始められるきっかけとなったのは歯医者さんから「子どもの永久歯が生えなくなってきている原因に農薬があるかもしれない」というお話を聞かれたからだろう。小さなきっかけから、人にも、地域にも優しい先進的な農業を展開されていることを知り、参加者それぞれが様々な刺激を受け

里いも、万願寺甘とうがらし、大根収穫体験



軽トラの荷台に乗るの夢だった

里芋を掘り出すのは意外と時間がかかる…



←毎年恒例、大根の収穫を終えた後にみんなでパシャリ。
納得のいく大根は獲れたかな？

エチエ農産の設備見学



←重いお米もリモコン操作で運べます。実際に前後左右に動かして下さいました。

地域の人にも貸し出していらっしゃるという精米機が何台も連なっています →
こうして収穫されたお米を私たちが



餅つき大会♪

女性も男性も交代にお餅をつきました。2回目のお餅には紫いもを混ぜて貰い、女性陣は大興奮でした。ついた後は丸めて、きなこ、ぜんざい、おろし大根、の3つの味付けで楽しみました。みなさんはどの味がお好みだったでしょうか？



1日目夕方 箱石浜にて小滝先生によるジオパーク研修

日没を狙って箱石浜に移動し、小滝先生に京丹後の地学的な特徴などを説明していただきました。写真は拳を使った角度の測り方を皆で実践している様子です。

説明の後には箱石浜を散策しました。お天気にも恵まれ夕日を堪能でき、満足度の高い企画のひとつとなりました。



箱石浜まで歩いてきたとき、皆さん丘を登りましたね。

そう、この地形は砂丘なんです。波が荒いのも京丹後の浜の特徴で、だから砂が洗われて綺麗になる。鳴き砂は石英質の綺麗な砂でなければ鳴かないんです。



1日目夜 海鮮バーベキュー

夜は風蘭の館で海鮮バーベキューです。越江さんにもお越しいただき、長い夜を楽しみました。



2日目朝 蒲井浜・ツリーハウス散策

少し早起きをして朝の散歩をしました。暖かい朝でしたね。浜にはシカと思しき足跡もありました。ツリーハウスに行くまでに険しい道を通りましたが、その崖から見えた海も綺麗でした。



2日目昼 ミルク工房そら

ミルク工房そらでは、平林さんのお話を伺った後、バターづくり体験や牛舎見学をしたり、ジャージー牛ソフトクリームやジェラートを食べたりしました。



～平林さんのお話～
牛がお乳を出せる期間は、赤ちゃんを産んだ後1年ほどです。お母さん牛は自分の赤ちゃんにお乳をあげたいだろうに、私たちの飲食用にお乳を搾られます。私たちにとっては本当にありがたいことだなと思います。



お昼寝時なのか、
眠たそうな牛さん
もちらほら

2日目夕方まで 与謝野町立古墳公園

古墳公園では勾玉づくり体験と古墳散策をしました。作り始めると意外と凝りたくなるようで、時間をかけて各々の理想の形、艶を極めていました。



凝りだすとなかなか
先に進まない・・・



大きな古墳が多いのは、大きな権力を持つ者しか古墳を作れなかった古墳時代前期の特徴なのだとか。→古墳公園へ行くまでのバスの中では、歴史学科のおれんじ高野くんによる丹後の古墳についてのプチ前説もありました。



■学生員おれんじの振り返りより—運営側としての成果・課題と総評

よかった点・成果

- ・人数が増えたにも関わらず、出発時間などは予定時間通りに守って動けたこと。
- ・アンケートからみると、多くの人から満足してもらえる内容であったこと。
- ・去年とは違い一回生が企画段階から関わり、当日も多くの一回生が参加するなど、引き継ぎの要素も含めることができたこと。
- ・情報宣伝を7月後半から行ったことで、参加者が増えたこと。
- ・2日とも天候に恵まれたこと。

課題

～準備段階～

- ・企画者とおれんじ参加者の中で情報共有が不十分だった。
- おれんじ参加者の運営事前学習会の時間を設けるべき。また学年ごとにどのようなスタンスで動くのかを決めておいた方がよい。
- ・全体の動きをマニュアル化してもよいのではないか。
 - ・去年と違い友達同士での申し込みが多かったので、来年はその点も考慮すべき。
 - ・当日のスケジュールをもっとゆとりをもって設定すべきだった。
- 現地でお世話になる方と密に連絡を取り、細かい当日の動きをイメージできる書類を作っておく
- ・企画の内容自体も実行委員に任せきりにするのではなく、おれんじ全体で敲きをするべきだった。
- 企画段階でもおれんじ全体で共有する時間を設ける。
- ・男性の参加者数が少なかった。
- 男性への広報の仕方を考える。

～当日の運営～

- ・おれんじと一般参加者の交流が去年に比べて少なかった。
原因：グループで参加する方が多かったから/おれんじの参加者が多かったから
→グループ参加者に対する工夫をする/おれんじの参加人数は考慮し、「内輪感」をどのように排除するか考える。
- ・おれんじパーカーは全員が着ると一般参加者に威圧感を与えてしまう気がする。
→実行委員だけが着るようにするなど、対策を考える。
- ・バスの座席でおれんじが前の方に固まりすぎていた。
→グループ分けして前後に点在させるべき。
- ・エチエさんで体験前に手を洗うとき、スムーズにできなかった。
→おれんじが先に手を洗うことで一般参加者のためらいを避けるようにする。
- ・エチエさんのお話の後、感想交流があまりできなかった
→いきなり全体で個人を発表させるのではなく、グループ内で交流する時間をつくる。
その後、グループの毎に発言してもらうなど、話しやすい雰囲気をつくる工夫をする。
- ・農村体験ツアー開始前に参加者の全体ラインを作っておいた方が参加者にもスムーズに情報（時間の変更など）が伝わったであろう。
- ・大人の参加者と交流する場が少ない。
→バーベキューの大人席について工夫はできないか。

・花火とサッカーを近くで同時にやるのは危ない。勝手にのキャンプファイヤーをさせるのも危ないと思った。

→夜の自由時間の統率をもっとしっかりとるべき。

・バドミントンなどの遊びも一部の人がする傾向があった。

→遊び道具の数や、自由時間についての指示を工夫する。

・2日目の昼食のバイキングが混雑する。

→お弁当にするなど、形式を見直した方がよい。

総評

今年と去年の違いは参加者が大幅に増えたことである。生協の還元企画としての目的は達成できた反面、「京丹後の生産者の方と直に交流して想いや苦勞を知る」「年齢、性別、学科を越えて参加者同士の交流を深める」などという企画の趣旨を参加者の方が理解し、目的として達成できたかは評価しがたい。農村体験ツアーの本来の趣旨、またそこから生まれる目的は何なのかを運営側が全員で把握し、準備、当日の動きに反映させていくことが重要である。

直近で振返りを反映さえる場として、流木祭での出店がある。ツアーの事後活動として、当ツアーの最後の目的であった「ツアーで学んだこと、感じたことをほかの人に伝えていく」ことを実行したい。

来年度の企画に向けては、今年新たに生まれた課題と成果をこれまで培ってきた課題、成果とともに咀嚼し、より成熟した企画を作り上げることを目指したい。今年の1回生が来年度の運営主体となるわけであるが、現2回生も引き継ぎをしっかりと行い、来年度にも力を添えられる事後活動を行う。農村体験ツアー10周年に相応しい、生産者の方、参加者、運営者みなが心豊かになれるような企画になることを願っている。

■参加者アンケートより（一般参加者27名からアンケートを回収しました）

農村体験ツアーを知ったきっかけ（複数回答在り）

ポスター	18
ビラ配り	0
Twitter	4
おれんじの呼びかけ	4
友達や先輩の誘い	6
その他	0

各企画の評価

バス内レクの評価	
とても良い	3
良い	18
悪い	5
とても悪い	1

エチエ農産	
とても良い	22
良い	5
悪い	0
とても悪い	0

ジオパーク研修	
とても良い	19
良い	8
悪い	0
とても悪い	0

バーベキュー	
とても良い	13
良い	12
悪い	2
とても悪い	0

ミルク工房そら	
とても良い	19
良い	8
悪い	0
とても悪い	0

古墳公園	
とても良い	12
良い	15
悪い	0
とても悪い	0

農村体験ツアーに参加しようと思ったきっかけ※アンケートからそのまま引用しました

- ・ 農業体験したかったから
- ・ バーベキューがしたかったから
- ・ バターづくりが楽しそうだったから。
- ・ ツアー内容が（特にミルク工房とガラス細工）が楽しそうだったから。
- ・ 美味しいモノ食べて、非日常も味わいたい！と思ったから。
- ・ おいしい京丹後米が食べたかったから。
- ・ 友達に誘われたから。
- ・ 以前より農村に興味があり、参加費がやすかったの。
- ・ 体験形式でおもしろそうだったから。
- ・ 友人から楽しかったと体験談を聞いて興味をもちました。
- ・ 仕事で関係のある場所を訪れるツアーであり、現場を知るため。
- ・ 癒しを求めて・・・（4年前に参加して、印象に残っていたので）
- ・ 後輩に誘われ、学業最後の思い出に作りに…
- ・ 安い！！
- ・ 自然とふれ合いたかったから。
- ・ ちょうど旅行に行きたいと思っていたし、価格もとても安く、ツアー内容も安心できるものだったから。
- ・ 京丹後の方にあまり行かないので、行ってみたいと思ったから
- ・ ポスターやTwitterを見て、今しかできないような体験がいっぱいでき、すごく楽しそうだったから
- ・ 担当会員なので。。去年の話を聞いて行きたかったの。

この2日間で一番心に残ったこと（企画）を具体的に教えてください

- ・ エチエ農産でのおにぎりを握って食べたこと
- ・ バーベキュー交流会で越江さんと直接お話できたこと。エチエ農産でのお話もとてもよかったです。直接のお話がよかったのもっと多くの方が話したらいいのに…。と思いました。
- ・ ジオパークの日の入りがとてもきれいで感動的だった。忘れられない景色でした。
- ・ どの企画もすごい楽しかったので1番とか決められないです
- ・ エチエ農産さんでの収穫、もちつき
- ・ 10分も離れたところに行くのという宿説明
- ・ バターづくり。バター自体も低脂肪牛乳もとてもおいしく、驚いたから。
- ・ 海岸から見えた夜景と満月
- ・ 動物とふれあえたこと

2日間の感想

- ・ 同じ京都でも市内とは全く環境が異なることを知って、また行く先々の人がみんないい人たちで良かった。
- ・ 本当に楽しかったです！！すごく良い思い出になりました（´▽`）ありがとうございました✩
どの企画も充実していて、スタッフさんがみなさん優しくて温かかったの、ずっと安心して楽しめました…！
- ・ 笑いあり、涙あり、飯ありの美味しい体験でした！ありがとうございます！

- ・この参加費で2日間でこれだけの事ができるのはすごいと思った。
- ・自分で獲った食材を食べることでよりおいしく感じることに、また自然や動物からの恵みで生きていることを改めて実感しました。食物に感謝の心をもつことに気付かせてくれるこのツアーにぜひ多くの方に参加してもらいたいと思います。また、他学科や他学年の方と話すとても良い機会となりました。
- ・内容の濃いツアーで社会人になってからはなかなか行くことがない場所が多くとても楽しかったです。
- ・来年の農村体験ツアーが今から楽しみです。
- ・格安価格なのに、各企画・交通手段・宿泊施設などがきちんとしていて、とても良かった。もっとたくさんの府大生にこのツアーのことを知ってほしいと思う。
- ・自分が普段口にしてる食べ物の生産者さんの思いを聞くというコンセプトがとても良いと思います。でも盛りだくさんな内容でそれを忘れかけるので、ツアーのコンセプトをもっと意識できる工夫があるととても良いなと思いました！（京丹後の魅力を知ることとはとても印象に残っていると思います！）

来年に向けての要望

- ・夜、大人数だと寝る時間がバラバラなので部屋はもっと少人数でわけてほしかった。
- ・BBQの魚はおいしかったけれど量が多く最後は魚ばかり食べていた。野菜・肉をもう少し多くしてほしい。
- ・事前の連絡などに問題がありすぎるのではないかと感じました。あまり、知らない電話番号からの電話に出ようとはしませんし、説明会も直前すぎて準備に支障をきたした人が多いのではないかと思います。説明会の会場も、来ると予想される人数を考えると、別で教室などを借りるべきだったのではないかと感じました。更に、バスの座席表や部屋分けなどは事前にある程度決定し、しおりに記載すべきだったのではないのでしょうか。
- ・しおりに書いてある行程時間が大きくずれていることが多かったので、集合時間などが分からない場合があった。
- ・花火こわい。。
- ・丹後王国へ行ったり、果樹園へ行くのもよいかと
- ・女性が多く、またシャワーの調子が悪かったので、なかなか上手くまわせませんでした。
- ・おれんじのみんなが情報共有できていないのはまずいのでは？
- ・ガラス体験ができなかったことだけが心残りです。来年はぜひガラス工房来夢に行ってみたいです。
- ・おふろの湯船に水がはっておらずとても寒かったので自分達で水をはった。最初からお湯が入っているとありがたい。
- ・毎年少しちがった企画をすれば今年の参加者も参加しやすいと思った。
- ・運営側でもあり参加者でもあるので難しいとは思いますが、内輪感が気になる場面はたしかにありました。
- ・バーベキューのかぼちゃをもう少し多くしてほしい。
- ・共同作業の要素を増やせば、参加者どおしの交流の幅がもっと広まると思う。

来年も『農村体験ツアー』に参加したいと思いますか？

参加したい（時間があれば、違う企画があればを含む）→26名中22名